

第5回秋葉山再生連絡会議(市民関係者等意見交換会) 会議録(要旨)

●日時: 令和6年11月22日(金)午後1時30分～2時36分

●場所: 南陽市役所4階大会議室

●出席者23人・南陽市長・山形大学

・宮内財産区管理会【地権者】・内原地区【地権者】・新町地区【神社関係者】

・宮内小学校・宮内小PTA・南陽山の会

・オブザーバー:

林野庁置賜森林管理署、米沢地方森林組合、山形県置賜総合支庁(河川砂防課、環境課)

・南陽市(建設課、商工観光課、農林課)

1開会(13:30)

進行:南陽市農林課長補佐

2市長挨拶 南陽市長

5月4日の林野火災から半年が経過。山の様子も自然萌芽も見られるなど緑が戻ってきている。

本日は、特に秋葉山に関係する地権者や神社関係者、毎年登山行事を実施している宮内小学校やPTA、山の会の皆さまにご参集いただき、秋葉山再生に向けた意見を頂戴したい。再生は中長期にわたる息の長い活動となるが、ぜひ忌憚のないお話を伺いたい。

3出席者紹介(進行)

4概要説明(農林課長)

①林野火災について

◆林野災害の概要説明

・5月4日12時52分消防に覚知され、鎮火5月12日までの9日間に約122haが焼損し山荘やトイレ等の作物と共に被害を受けた。3地区148世帯410人に避難指示を発令され、消火には延べ1,946人を要した。

◆農林被害等の概要説明

・焼損エリアのうち、約102haが森林面積で、約20haが人工林、約82haが天然林。

・農業被害については、直接的な焼損はなく、発災当初ラフランスとリンゴ14本に一部葉焼けが見受けられたが、今月確認したところ収穫には影響なしと報告を受けている。

・森林整備区域内の森林所有者アンケートを実施し、会社倒産の1社を除く34人全員から回答。自力再生は困難、森林経営をしていないとの回答が多く、自発的な森林再生は難しいと判断するところです。

②これまでの対応について

・月1回ペースで関係機関による再生連絡会議を開催、アドバイザーをお願いし、焼損範囲の座標化、旧山小屋周辺の毎木量や損傷度合いの調査及び山小屋の撤去による広場造成等を実施。

・エリアに介在する「土砂災害警戒区域」について、県総合支庁河川砂防課より監視いただいております。今年の大雨においても特異な変化はなく、現状危険性が増している状況ではない判断です。

・建設課から道路の舗装工事等の進捗状況報告。11月15日に工事完了。

5意見交換 座長:南陽市長

①森林再生に向けた課題について(市農林課)

・焼損地図の解説(レモン色は焼損エリアで約122ha。オレンジ色は立木が焼損したエリアで約30ha、その内数で赤色は立木も地表部もすべて焼けた全焼エリアで約2ha。)

・オレンジ色の上層焼失エリア(赤色の全層焼失を含む)の拡大縮小によるゾーニングの見直しを来年実施することを前提に、焼損木の倒木や大雨時流出の危険性、土地所有者管理上における伐採、再造林が望ましいことから、条件を整えながら所有者負担ができるだけ生じない方策を今後提案したいと考えている。

・森林整備計画区域外の耕作放棄地の山地化焼失エリアについては、農地法の制約もあり支援可否も含め今後の課題と捉えており、一部の急峻、岩場等の植栽困難エリアほか、砂防えん堤が現在工事中の箇所もあるので、そちら流域エリアは県と所有者の課題もあろうかと思っておりますので、全部が更新できるかは現場の状況を勘案する必要を認識しております。

以上、原則、上層焼失森林までは、再造林を前提にご提案したいと考えております。

②アドバイザー意見について(山形大学名誉教授)

■焼損タイプとゾーニング

・「全層焼失」、「上層焼失」、「下層焼失」のカテゴリー区分は現状に即しており妥当性が高かった。タイプ別の

焼失範囲については置賜総合支庁森林整備課のご尽力により作成されたオルソフォトが力量を発揮した。これをもとに南陽市当局作成のゾーニングが大変正確で、現実的な対応に直結するものと思われた。

■優先的着手箇所

- ・焼失箇所の優先的に対応する場所の選定は前述のゾーニングをもとに順序付けが行われることになろう。
- ・消失規模の大小はその基準になるが、市民の意見を取り入れた価値あるものになることを期待する。

■シンボルエリアの設定

- ・山林火災はネガティブファクターは大きいものの「森林再生秋葉山モデル」と呼ばれるような市民参加型森林再生プロジェクトは森林の大切さを理解し市民に浸透していただく格好な資源になると考えるのでむしろポジティブファクターと捉えるべきであろう。

■新規造林の意味

- ・県内において高齢級の針葉樹人工林が増加する傾向にあり、皆伐再造林が進まない現状にある。消失跡地への新規植林は齢級構成の平準化に貢献するため、長期的な視野に立った植栽計画が必要と思われる。

③関係団体から

◆宮内財産区(地権者)

- ・資料3の地図は上が北か？山頂等がわかるように記入してほしい。先人の信仰の厚さが感じられる山。
- ・焼損が激しく再生が難しい所は植林し再生するとの話だが、財産区には財産がないので人工的な森林再生には資金が出せない。どういう整備方法を実施していくのか。

◆内原地区(地権者)

- ・地区内でも山を再生したいとの思いから昨年から下刈等の整備を実施している。
- どこまで元に戻せるのか分からないが昔のように子供たちがキノコ取り等遊べるような整備にしてほしい。

◆新町地区(神社関係者)

- ・5月第3土曜日に神社祭礼、翌日有志で神社に上り御祈禱を実施している。今年は6月に実施したが、祠に被害なく安心したところ。

◆宮内小学校

- ・毎年、5月上旬に学校行事として4年生が登山しており、秋葉山荘のビューポイントで市街地を背景に集合写真を撮り、頂上で昼食をとっている。頂上のモニュメント、植生の説明や山菜、きのこ貴重な森林体験。
- ・来年度の登山の可否については事前に下見をしながら総合的に判断して実施していきたい。植林については発達段階や人的課題等もあるが可能な限り協力したい。

◆宮内小PTA

- ・4年生の授業として秋葉山登山実施。子供たちは楽しみにしており、湧き水を祖父母に持ち帰り長生きしてねのエピソード。森林が再生していく過程を年単位でわかることも勉強になる。花粉症の父兄からはスギは嫌だとの意見あり。学校と協力して対応していきたい。

◆南陽山の会

- ・昭和30年設立。69年間活動。山小屋2棟、トイレ焼失(平成8年4500万円)。
- ・ヒメサユリ(6月)の咲く山(山形、福島、新潟にしか自生していない高山植物)、イワカガミ(5月)の群生地(東西70m×南北80m)であるが、高山植物焼失し再生するか心配。ヒメサユリの球根が生きていれば。
- ・登山道脇の下草や焼損木も伐採いただいているので登山に支障はないと感じている。
- ・今年は林野火災があり通行止めもあり登山者が少なかった。刷新感を出すため標柱9本更新や秋葉山登山口の案内看板を向山球場の駐車場あたりに設置してほしい。
- ・山形百名山(十部一山、白鷹山、)。市制20周年記念、市民400人登山実施。

◇再生事業を理解いただかないと具体的な提案ができないため、

- ・整備に係る金銭負担については、アンケートの結果でもわかるように難しいという状況ですので、できるだけ負担が生じないような整備方法について提案していきたい。
- ・山小屋周辺のテープについては現在毎木量調査を実施中で、どの程度の焼損木が何本あるのかを調査している。

◇商工観光課

- ・標柱等は県の所有物。今後県において東北自然歩道が全県的に活用されていない状況があり県としては腐食して壊れた標柱の撤去を進めている状況。新規で再生については県と協議していく。

◇今現在まだ確定的なことはお話しできない状況ですが、皆さんの意見を聞きながら、地元の負担がない形で秋葉山を再生していく方向性を共有したいのですがいかがですか。

意見がないようですので今後具体的に相談しながら進めてまいりますのでよろしくをお願いします。

◆山形大学名誉教授

- ・財産区の意見は貴重な意見。資金を出してくれそうな団体をリサーチしていくことも可能。スギ花粉の件について、現在、新規に再造林されるスギは少花粉のスギである。
- ・ヒメサユリは来春にならないとわからないが、焼けた跡からワラビが復活しているし、火が入ったことで休眠打破という現象が起こることも樹種によってはあるので期待したい。また、ヒメサユリが自生していたのか吾妻や朝日から移植したのか興味がある。
- ・森林が再生していく姿を見ていくことは非常に重要でこれを抜きにして秋葉山再生は考えられない。一番重要と感じている。

◆林野庁置賜森林管理署

- ・秋葉山再生連絡会議に当初から参加させていただいており、市民に慕われている山なので再生には市民の意見を聞いたうえで行うとの方針でしたので意見が聞けたことが良かった。
- ・「皆さん秋葉山を再生したいんですね」の発言があり、全出席者から異論がなく、再生の意思を確認。国、県、市で協力して何とかして再生に向けて地権者の負担なく、方策を探っていきたいと思う。

◆米沢地方森林組合

- ・森林再生に向けて来春の芽吹きを確認し、ゾーニングを図りながら整備していく必要がある。
- ・森林組合としても最大限の協力をいただいて、知恵を絞りながら再生に向けてやっていくのでご協力よろしくをお願いしたい。

④当面の対応策について(農林課)

- ・ただ今、来春の見直しはあるにせよ、再造林の方向性は確認させていただきましたので、今後、所有者の方には「個別毎」「一番有利な補助金や施業方法」をご紹介します形で、再生についてご提案させていただきたいと思います。
- ・先ほど道路整備が進んでいることはお話しました。その終点、山小屋付近でワラビの急速な繁茂拡大が見受けられ、さぞ来春はにぎわうであろう予想の下に、全層焼失エリア図示「1」になりますが、スギ・マツの焼損木が主体の市道の上側で、森林組合実地調査時、中でも焼損が激しく危険と報告を受けるエリアについては、危険除去が喫緊の課題と捉え、来春早々までには伐採が必要と考えております。
- ・また、この林野火災を教訓とし、加えて、ふるさとの原風景として子どもたちや市民の心に秋葉山を刻んでいただくため、前述エリアを中心に来年、令和7年、または7年以降に宮内小や保護者の皆さん、また関係者、市民の皆さまに呼びかけを行い、植栽していったらどうか？と考えておりますので、改めましてご賛同賜れば幸いです。

◇80歳近い方が自分が小学生の頃、無理やり山に連れていかれ植樹させられたことが毎年あった。だから愛着あるんだ。すごく大切なことだから是非進めてほしいとの声をいただいている。安全を第一にしながら故郷の大切な山を宮内小だけでなく広く市民の皆さんで守っていく活動ができればと思っていますので、学校で共有していただければありがたいです。

6その他

7閉会(14:36)

第5回秋葉山再生連絡会議 会議録(要旨)

- 日時: 令和6年11月22日(金)午後2時50分～3時15分 ※市民関係者等意見交換会終了後
- 場所: 南陽市役所4階大会議室

- 出席者12人 ・山形大学 ・林野庁置賜森林管理署 ・米沢地方森林組合
・山形県置賜総合支庁(河川砂防課、環境課) ・南陽市(建設課、商工観光課、農林課)

意見交換 座長:農林課長

◇土地所有者の方が納得されたうえで取り組んでいくことが課題だったわけですが、再生事業についてはみんなやっていこうとご理解いただいたものと思います。今後保安林指定なども含めながら具体的に国の機関の支援をいただくことが前提にはなりますが、県と国にお願いにあがり段取を順を追って進めてまいりたい。その段取りが一步でも間違えるとストーリーが崩れてしまうので確定的なところが言えませんでした。県国のご理解がないと再生事業が進みませんのでご容赦いただきましたかったなと思います。

(山形大学名誉教授)

地権者の方から再生していくことについて合意を得られたのが今日の会議の最大の成果。

教頭先生から登山時の集合写真の話があったが、景観が確保できるビューポイントが何力所かあった方がいいと思うし、無理やり植栽はせず見通し良くした方がよい。秋葉山に入ってくる原動力になる。

元々ヒメサユリがあってそれを株分けして植えている市民の方がいるのであれば、そこから再度秋葉山に持っていくのは遺伝子操作にならないのではないかな。庭から山に戻すのもありかなと思う。

(置賜森林管理署)

里帰りは遺伝子学的には非常に重要で、東日本大震災の一本松も先日里帰りした。各地で天然記念物級の木が徐々に枯れてきており実施されている。地元で愛されて庭で増えた苗を山に返していくようなことがあるのもっと楽しい再生事業になるのかなという印象を受けた。

(米沢地方森林組合)

ヒメサユリやイワカガミの高山植物が元々あったと聞いて、「コナラ」でなく「ミズナラ」なんだと実感した。取り残された地帯なのではないのか。新しく作るのではなくあるもので再生できるかなという感覚を持った。農林中金の森力に応募しており、来週の木金に二次審査に向けた聞き取り調査があり、最終の二次審査の2月に向け対応していく。木曜日に山に登るのでよろしくお願いします。

◇市としての本日の主眼は、再生に向けた再造林の意思統一、コンセンサスを得ることが一番の目的で確認することができて良かった。これがないと市民の方に再生事業をやること公表できない。

今後2月頃農林中金の補助事業が活用できるかわかるので一つのファクターとして活用していきたい。

あとは国県の支援をいただいて分収林という形になりますがこれからお願いしていくことになるため確定的なことが説明できなかった。

宮内小学校はじめ関係者の皆さんと山荘付近になります植栽を行っていききたい。30aは危ないため来春山に人が入る前に切らなければならない状況も確認いただきましたし、届出義務については環境課のお力添えをお願いしたい。

(置賜総合支庁環境課)

皆さん「お金は出せない」という不安が先に立っておられたようなので、そこを取り払えば、もっと違った意見もあったかと思えます。逆に言えば、お金を出さなくてもいいのであれば、できることはやる、と市役所に委ねてくださったような形なので、市役所が描く形を積極的に提案してよいのではと思いました。

標柱、看板について、東北自然歩道の施設については基本的に再整備はせず、危ないものは撤去する考えです。

6その他

・12月は秋葉山再生連絡会議休み。次回は1月に高畠町との合同プロジェクト会議を開催したい。

2月頃に森力の結果が見えたあたりだと展望ある話ができるかなと思っています。

7閉会(15:15)